

MBA 2024

Rikkyo Graduate School of
Business Administration



立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科

ゼネラリストの スペシャリストを育成。 立教のMBA

ビジネスデザイン研究科は、これから日本が求める
ビジネスを「デザイン」する“真のゼネラリスト”を育成。
未来の日本を創造する「ビジネスクリエーター」を創出します。

ビジネス社会を鳥瞰し、勇気と情熱をもって飛び立つ。

そんなビジネスクリエーターが今の日本には必要です。

ビジネスデザイン研究科は、社会人のためのMBAコースです。MBAとは、Master of Business Administrationつまり、経営管理学の修士です。私たちの研究科は、単に経営管理学を修める大学院ではなく、創造的な事業を構想し、持続可能な組織を構築できる人材、すなわち、ビジネスをデザインするビジネスクリエーターを育成します。

世の中には多種多様な専門家がおります。専門家と称される人々は、特定領域の経験や知識が必要であり、その分野の経験を積み、知識を掘り下げることが要求されます。弁護士や公認会計士、税理士、あるいは医師や看護師などの専門職は、問題を発見するために固有のスコープと問題解決のための特有の「ことば」を持っています。しかし、事業構想には、準備されたスコープも適当な「ことば」もありません。変化する環境と経営資源の最適結合を図るために、内外の知識を束ね、観察する問題を発見し、利用するスコープと「ことば」を選択して、進むべき方向を決定しなければなりません。狭い視野では見ることのできないビジネスの社会を鳥瞰し、進路を決めて飛び立つ勇気と情熱を持つビジネスクリエーターが必要とされています。

私たちが準備するカリキュラムは、みんなが勇気と情熱を手に入れるためのものです。多種多様な知識を得るために、基礎



知識モジュール・システムによる多様な専門知識の修得

ビジネスデザイン研究科は、マネジメントの専門知識を修得するためのMBAプログラムをベースに、新たな事業を構想する創造的思考や経営全体を俯瞰して考える力を養うカリキュラムを用意しています。

カリキュラムは複数の科目から編成された「モジュール」の集合として構成されています。各モジュールは、知識修得の目的や課題領域、活動領域の関連性をもつ科目群によって編成され、大きく基礎理論モジュール、応用／専門モジュール、修了研究モジュールの三層から構成されています。

基礎理論モジュールは、「ビジネスクリエーター」としての戦略的／創造的思考を養う「ビジネスシミュレーション」、マネジメントの基本的知識を修得する「基礎理論」、MBAとしての分析手法や実践的スキルを学ぶ「基礎スキルと実践的知識」といったモジュールから構成されています。

モジュールによる履修のイメージ



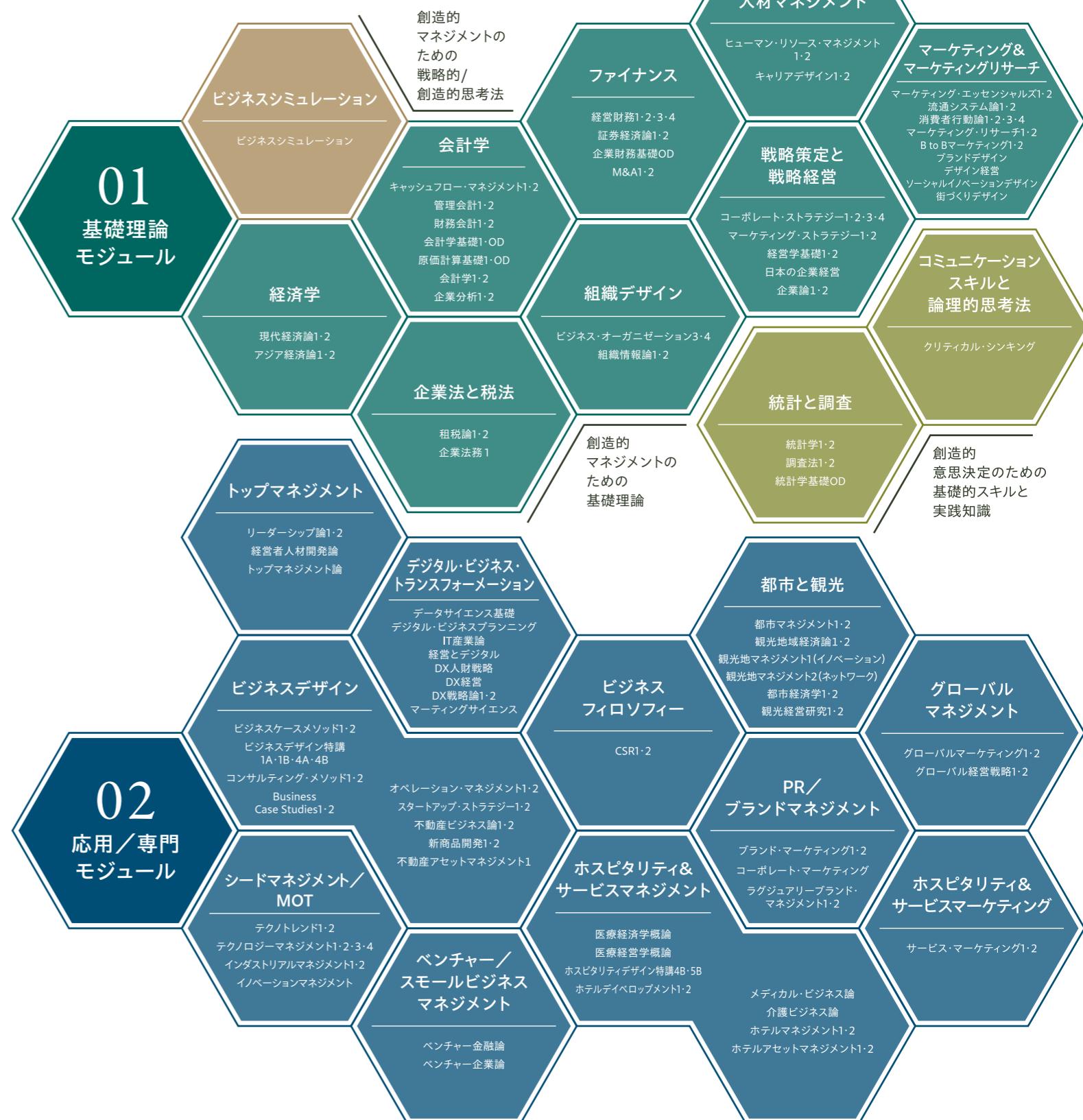
応用／専門モジュールは学術領域によって編成されるのではなく、実際のビジネスや業務活動にとってどのような専門知識が必要かという観点から編成されています。例えばグローバル経営に必要な知識は何か、あるいはブランドマネジメントのために何を学ばなければならないか、といった点からモジュールが編成されています。修了研究モジュールはRBSの修了要件であるビジネスプランや修士論文等を作成するために要求される知識やスキルを修得するための科目群から編成されています。

RBSでは、院生の皆さんは自分自身の関心や修得したい知識やスキルといった目的に従って、モジュールを選択し、科目選択という手順を踏みます。こうしたモジュールシステムを通じて、皆さんに身につけたい知識や修得したい能力に応じた学習計画の組み立てを可能にします。

SUBJECT

モジュールと科目群

多様な知識を修得する



一般社団法人日本データビジネス協会



データサイエンス基礎 / デジタル・ビジネスプランニング / IT産業論

本講座はデータの収集・加工・分析に優れた専門性を発揮し、各種データから経営にとって有効な知見を引き出すことができる人材である「データサイエンティスト」の育成を目標とするものです。「データサイエンス基礎」では、日本と米国で決定的な差がついているデータサイエンスの基礎学力に関して基本概念を理解し実践能力の習得を目指します。「デジタル・ビジネスプランニング」では、データサイエンティストの職務・役割としてのデータ活用プラン作成について、その手順・構成を中心に学び、プランニングを実施し評価します。「IT産業論」ではビッグデータ、AIなど情報技術の革新を背景とする産業構造と社会の変化を理解し、今後の経済社会の変化を読み解くための知識を学びます。

一般社団法人ビジネスプロセス・アーキテクト協会



経営とデジタル

本講座は、ITが企業・組織にとってより重要な役割を担うようになっている今日において、ITプロジェクトを真の意味で「成功」に導くための実践的知識や基本アプローチの修得を目的とするものです。経営とITにおいて、それぞれ異なる経験を有する複数の識者によりITプロジェクトの事例を踏まえてどのような問題に直面するのか、いかにそれを克服するか、プロジェクトの成否を決する要因とは何かなど、実践に基づく知見を講義します。

株式会社ユニゾン・ホールディングス



DX戦略論 1・2

本講座は、企業で、DXプロジェクトを担当している方はもちろんのこと、情報、企画、設計、開発、総務などを担当している方にとっても有益な視点を提供します。実際の講義は、ケース・スタディ（グループディスカッションおよびクラスディスカッション）とエクササイズを展開することにより、理論の理解を深めながら、DXを推進する力を確立します。

アデコ株式会社



DX人財戦略

「VUCAの時代」と呼ばれる現代、デジタルの活用によりビジネスの継続的な変革を実現することができるDX推進人財が重要性を増しています。単にデジタルツールを用いるだけでなく、デジタル化によって組織に行動変容を起こすことができる人財となるために、本講座では、DX推進人財に求められる要素やDX推進人財が躍動する組織構築をテーマとして、体系的に学ぶとともに、討論を通じた探求を行います。

株式会社NTTデータ経営研究所



DX経営

デジタルトランスフォーメーションを如何に実現していくのか？特に日本のレガシー企業で、どのようにDXに取組むべきかを主題に、毎回、実際のビジネスの場で活躍する現役コンサルタントをゲストに迎え、現場視点での事例紹介・討議を通じて、様々なDX経営の手法を探求します。

株式会社NTTデータ数理システム



マーケティングサイエンス

昨今のビジネス領域においては、様々な数理科学の手法を用いて、より進化したマーケティングを行うことの重要度が増してきています。本講座では、どのような手法がどのような場面で必要とされるのか、どのような効果が得られるのか、各手法における得手不得手は何かを、事例を交えて理解するとともに、その活用方法やステップについて学びます。様々な手法の中身を理解することも必要ですが、それよりも、ビジネスの現場において、課題に直面した際に解決するために必要な知識とスキルを身に付けることを主眼とします。

巣鴨信用金庫



コンサルティング・メソッド 1・2

本講座では、企業経営の理論的学習と中小企業に対するコンサルティング実践を融合させ、コンサルティングを経験的に学ぶとともに、既存の手法の問題や限界についても考えます。授業では、協力いただく中小企業に対する新規事業や業務改善提案を通じて創造的な事業構想力や問題解決力を養います。学期の前半では市場、産業、技術の動向を踏まえたマクロな業界分析に取り組み、後半では中小企業への訪問、経営者へのインタビュー等を通じて事業や経営資源、組織能力についての分析を行い、それに基づいて実践的な提案を行います。

ランドマーク税理士法人



租税論 1・2

本講座は、実体経済の理解には税制に関する理論的実践的知識が不可欠であるとの観点から各税目の成り立ちや仕組み、特徴を理解することを目的とするものです。所得税法と法人税法を中心に、消費税法、相続税法、国際課税も扱います。さらに、各税目の第一線に立っている実務家ならではの経験や最新事例も併せて解説を行います。

公益財団法人日本デザイン振興会



デザイン経営

新しい経営の思想として、いま社会に望まれる事業遂行の姿勢として、昨今関心が高まっている「デザイン経営」について、近年のグッドデザイン賞受賞事例／事業者による多分野の実践例に着目します。当事者からの講義などを通じて、「デザイン経営」の目的性・社会的意義・具体的なアプローチの内容を理解し、受講生が自ら創造的に事業の構想と推進を担うべく、デザインをビジネスに活かしていくための素養を習得します。

株式会社博報堂



ブランドデザイン

現代のビジネスにおいて「ブランド」の重要性はますます高まっています。ブランドデザインは単なるデザイン作業ではなく、ビジネスマネジメント全領域にわたる重要な概念に変化してきています。しかしながら、ブランドおよびブランドデザインの概念は誤解されやすく、適切に理解されていないことが多い。本講座では、ブランドの基本概念と関連する不可欠な諸要素について体系的に学ぶとともに、演習を通じてブランドデザインのプロセスを体験します。

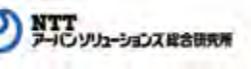
株式会社日立製作所



ソーシャルイノベーションデザイン

近年、ビジネスや公共政策の分野において「デザイン」への期待が高まっています。しかし、「デザイン」とは何か、その定義はあいまいで、対象は広がり続けています。デザインが期待を集め一方で、このことが「デザイン」の理解や浸透が進まないこの要因となっています。本講座では、デザインの本質について理解し、社会イノベーションを実現するためにデザインをどのように事業へ応用することが有効であるか、自ら考えられるようになることを目標とします。

株式会社NTTアーバンソリューションズ総合研究所



街づくりデザイン

すべての人は、日々、様々な営みを行いながら「まち」で過ごしています。しかし、その「街づくり」は限られた専門家や行政、不動産開発事業者が行うものとの認識が強く、個々の人は興味や自らの参加意識を持つ人は多くありません。本講座で、デザイン視点の街づくりを学ぶことで、「街づくり」への興味、自らが関わることへの関心を高めてもらいます。



企業に課せられた役割は、社会が必要とする財やサービスを開発し、提供することです。環境変化が早い現代社会において、社会とともにニーズを実現できる企業が「価値ある企業」といえます。価値共創時代に必要な知識や技能を共に学びましょう。

青淵 正幸 教授



新潟国際情報大学情報文化学部助教授を経て現職。専門は経営分析。現在の研究テーマは企業価値評価モデルによる株価説明力の検討。日本経済会計学会理事を務める。『要説経営分析』(五訂版) (森山書店、2016、共著)など著書・論文多数。

秋野 晶二 教授



ビジネスデザイン研究科は、社会の発展に結びつく知見・素養を身につける場です。「知識と実践の習得」を通して、さらなるキャリアアップに結びつけて下さい。ビジネスデザイン研究科での時間は、入学者の皆さんの将来に必ず役に立つはずです。

郭 洋春 教授



ビジネスにおける理論と実践の融合には、他人の経験からの学びが不可欠です。ビジネスデザイン研究科は学び合いの場です。教員からはもちろん、他の院生からの学びを重視します。自ら積極的に学ぶと同時に、他人の学びを尊重する姿勢が求められます。

庄司 貴行 教授



ビジネスデザインには、俯瞰力や戦略構築力が必要です。専門の研究者や多くの学友と異なる視野から議論を繰り返す中で研磨され獲得できるこの能力は、あなたの仕事だけでなく、多くの可能性を広げます。本学での学びを人生のステップアップにつなげましょう。

福井 康子 教授



慶應義塾大学経済学研究科博士課程単位取得専門分野は都市経済学、土地利用、住宅問題、都市の成長・衰退、不動産金融、REIT、ファンド、まちづくり等。『都市・地域・不動産の経済分析』(慶應義塾大学出版会:共著)など著書・論文多数。国連会議、研究等で訪れた海外都市は90を超える。

和田 芳明 教授



良い研究を成し遂げる近道はできるだけたくさんの文献やデータを読み、検討し、整理することです。皆さんの経験を対立する見解も含めた様々な知識と対峙させ、融合することで、広い視野とより一般的に通用する知識を創り上げてください。

秋野 晶二 教授



慶應義塾大学商学研究科博士課程単位取得退学。専門は、経営管理論、工業経営論。現在の研究テーマはエレクトロニクス産業における生産体制、現代企業の成長様式と調整様式、グローバル・バリューチェーン、プラットフォーム企業など。

片山 郁夫 教授



現代は唯一の正解がないVUCAの時代と言われていますが、そのような中でもビジネスでは大小様々な意思決定を迫られます。皆さんがビジネスデザイン研究科での学習によってビジネスの海を航海する際の羅針盤を得られるようサポートします。一緒に学んでいきましょう。

片山 郁夫 教授



社会人の皆さんの『経験』は重要な資源ですが、グローバル化した今日の経営環境では、経験のみに頼ることはできません。ビジネスデザイン研究科では、MBAの専門教育をベースに戦略的な判断力と創造的な思考力を鍛え、皆さんのがんばる飛躍をお手伝いします。

高岡 美佳 教授



企業経営において、M&A戦略が必要不可欠な時代となってきた。M&Aは、企業の成長・変革・生き残りのための重要な戦略実行ツールであり、事業戦略と財務戦略がM&Aの両輪となって顕在化する。これからの中のビジネスリーダーに必須のM&A実践力を養成します。

古川 英一 教授



本研究科には多彩なバックグラウンドの教員と院生が集まり、独学では学べない学びと刺激に満ちています。多彩な人たちとの学びは、ビジネスに関する知識やスキルを身に付けるだけでなく、議論が想定外に発展したり新しい発見があります。ぜひ一緒に学びましょう。私も学び続けています。

大山 利男 准教授



RBSが目指す「ビジネスクリエーター」育成に向けて、多くの情報の中から文脈と理論を見極め、自ら学ぶ過程をデザインし、ありたい自分を明確にする。そんな皆さんの支援を行います。ホテルビジネスを中心に、実務者の観点から今の時代を俯瞰してみたいと思います。

足立 充 教授



慶應義塾大学経済学部卒。1982年三井不動産入社。2010年三井不動産ビルマネジメント常務取締役、2014年三井不動産ホテルマネジメント代表取締役社長、2020年同社取締役会長。レジャー産業研究会副代表幹事。

斎藤 明 教授



私たちは、自分の中に無意識に、つくりあげられた固定概念、思い込み、思考枠の中にいます。所謂、これらを「凝り」をほぐし、時には壊し、そのことにより、自身の中に新たな「気づき」「行動」「成果」を獲得してください。

田中 道昭 教授



「目標をもつ勇気は進化する力となる」。大学院進学に当たって、是非とも自分自身の目標をもち、さらにそれを進化させてください。キャリア上の目標だけではなく人生100年時代の人生目標をもってここで学ぶことをお勧めいたします。

山崎 京子 教授



昨日とは違う明日を創るために必要な能力は、「問い合わせを立て「答え」を導き出す力です。従来はアカデミック領域で必須のこの思考力は、今後はビジネス領域でも求められます。実務家だからこそこの「問い合わせ」を踏み込んで思考し、社会に還元しましょう。

安田 直樹 准教授



外資系(英、米、仏)企業で人事実務を経て筑波大学大学院ビジネス科学研究科、神戸大学大学院経営学研究科博士課程修了。博士(経営学)。専門は組織行動論、人的資源管理。JICAのHRM教科主任、日本人材マネジメント協会副理事長。

平井 直樹 助教



ホテルビジネスを勉強することでビジネス全般を理解することができます。ホテル、レストランの具体的な事例を通じて、人材マネジメント、マーケティング、収益分析、不動産開発、デザイン、国際ビジネスについての実践と理論を学び、自分の取り組むビジネスプランに適用してください。

阿部 博秀 教授



東京大学経済学部卒。ヨーロッパ大学ホテル経営大学院修士。東京ガス勤務後、日本ハイアット代表取締役、ハイアットアジアパシフィック副社長(香港)、ハイアットインターナショナル部長(シンガポール)、香港中文大学非常勤助教(香港)を歴任。現在、H.A.アドバイザーズ代表として広くコンサルティングビジネスを行う。

下川 智広 教授



ビジネスリーダーは、将来に向かって様々な意思決定を行わなければなりません。しかし、経済環境は不安定で曖昧に、競争相手の行動は複雑かつ益々変化が激しくなっています。多様な不確実な状況を恐れず、主体的に対応できる学びを実現していこう。

野田 健太郎 教授



今や企業や組織には、単なる経済的な価値だけでなく社会的な価値の創造も求められています。私たちの研究科では、SDGs(持続可能な開発目標)に关心を持つことを通じて、みなさまといっしょに、新たな企業価値の創造に挑戦していきましょう。



人間の強みは著しい学習能力にあります。環境変化が激しく不確実性を増している今こそ、私たちは学ばねばなりません。研究科での学習を通じて皆さんのが自己的な能力を培い、更なる飛躍を実現できるよう応援します。

中山 伸彦 教授



社会人になってからの勉強は大変です。普段の仕事とは異なり、徹底して「考える」という行為は大変疲れます。しかし、それ以上に新たな発見、気づきがあります。学べる学ぶほど、知らない世界が広がります。学ぶことの楽しさを経験してください。

平井 直樹 助教



社会人になってからの勉強は大変です。普段の仕事とは異なり、徹底して「考える」という行為は大変疲れます。しかし、それ以上に新たな発見、気づきがあります。学べる学ぶほど、知らない世界が広がります。学ぶことの楽しさを経験してください。

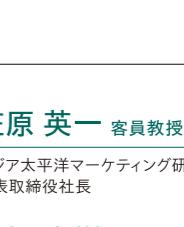


博士(商学)。一橋大学大学院商学研究科修了。日本政策投資銀行・設備投資研究所などを経て現職。専門は事業継続計画、企業の社会的責任、財務会計。著書は「ベンチャーエネルギー入門」(大学教育出版 2004)、「事業継続マネジメントBCMを理解する本」(日刊工業新聞社 2006)、「事業継続計画による企業分析」(中央経済社 2013)、「戦略的リスクマネジメントで会社を強くする」(中央経済社 2017)など。



人間の強みは著しい学習能力にあります。環境変化が激しく不確実性を増している今こそ、私たちは学ばねばなりません。研究科での学習を通じて皆さんのが自己の能力を培い、更なる飛躍を実現できるよう応援します。

笠原 英一 教員



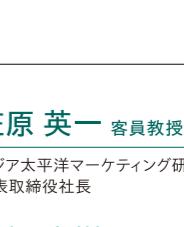
立教大学助手、尚美学園大学専任講師を経て現職。博士(経営管理学)。The York Management School CEGBI Associate Fellow。企業の創造的能力と組織デザインに関する理論的、実証的研究が現在の研究課題。

柴田 吉隆 教員



博士(経営管理学)立教大学。昭和女子大学現代ビジネス研究所研究員、ソフトウェア開発会社勤務などを経て現職。専門は経営組織論、情報システム・ソフトウェア開発などの知識労働、プロジェクト型組織のあり方や生産管理の方法など。

竹内 慶 教員



株式会社博報堂 ブランド・イノベーションデザインセンター主管デザイナー

客員教員

秋庭 孝俊 客員教授

株式会社コントラビズ
取締役社長

清田 幸弘 客員教授

ランドマーク税理士法人
代表社員

安部 哲也 客員教授

EQパートナーズ株式会社
代表取締役社長

中村 二朗 客員教授

中小企業診断士

井潟 正彦 客員教授

株式会社助太刀常勤監査役/
関西学院大学商学部教授

西村 剛 客員教授

元全日本空輸株式会社

今中 啓太 客員教授

株式会社NTTアーバンソリューションズ
総合研究所 取締役街づくりデザイン部長

野中 淳 客員教授

株式会社NTTデータ経営研究所
執行役員

牛窪 恵 客員教授

有限会社インフィニティ
代表取締役社長

濱田 真樹人 客員教授

株式会社ディー・クエスト
監査役

小木 しのぶ 客員教授

株式会社NTTデータ数理システム
取締役

宮澤 正憲 客員教授

株式会社博報堂
ブランド・イノベーションデザイン局 局長

笠原 英一 客員教授

アジア太平洋マーケティング研究所
代表取締役社長

高柳 寛樹 客員准教授

アワナパートナーズ株式会社
代表取締役CEO

柴田 吉隆 客員教授

株式会社日立製作所 研究開発グループ
社会イノベーション協創センター主管デザイナー

竹内 慶 客員准教授

株式会社博報堂 ブランド・イノベーション
デザイン局 局長代理



社会人の創造的な学びを支援する学習環境

ビジネスデザイン研究科では、社会人が日常業務の忙しさから離れて、知識の修得や創造的な思考に集中するための環境を整備しています。



池袋図書館

池袋図書館は、収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1530席を誇る、国内の大学でも屈指の大規模図書館です。総合学習図書館および研究図書館としての2つの機能を維持するとともに、多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、社会人の皆さんのがんの学修・研究を強力にサポートします。

図書館にはグループ学習室8室、多目的に使える講習会室2室が用意されているほか、個人またはグループのための創造・相互作用の空間「ラーニング・スクウェア」があります。また、図書館内全域で無線LAN利用が可能で、貸出PC含め600台のPCを設置し、ICT

環境が整備されています。

図書館の開館時間は、平日は22:30まで、土曜日は20:00まで、休日も開館しており、大学院の授業後に図書館で資料を収集したり、文献を探すこともできます。

また、図書館では各種のオンラインデータベースやオンラインジャーナルを用意しており、学内LANからすべて利用できます。一部はリモートアクセスも可能です。

新聞記事や雑誌記事、日本企業やグローバル企業の財務データ、業界や産業のデータベースなど関心に応じてさまざまな調査や分析が可能です。



ビジネスデザイン研究科前期課程 院生室

マキムホール4階には、ビジネスデザイン研究科院生のための院生室が用意されています。院生室フロアの入口は、カード錠(学生証)によって入室管理されており、院生のみが使用できるようになっています。院生室は、平日は8:30から23:00、土曜日は8:30から20:00、休日は8:30から19:00の時間帯で自由に利用できます。

院生室には、パソコン21台とプリンタ5台が備え付けてあり、院生は自由に使用できます。自分のパソコンを接続してインターネットや印刷を行うこともできます。また、事務室ではノートパソコンの貸与も行っています。院生室のパソコンには、MBAの授業で使用するSPSSやAmosといった統計ソフトウェアがインストールされています。

さらに、ARGUSという不動産評価のためのソフトウェアも使用することができます。もちろん図書館が提供する各種のオンラインデータベースやオンラインジャーナルも院生室から利用できます。

院生室フロアには、院生室のほか、共同ラウンジや共同院生室が用意されています。これらの施設は、他の院生とのミーティングや研究会、グループワークなどに利用することができます。日常の職場では得られない、自由でオープンな議論を交わすことができるでしょう。



**仕事が出来る人間になりたい!
もっと会社で活躍したい!
起業したい!**

ビジネススクールで学びたいと考えているビジネスパーソンの皆さんには、今の自分と理想の自分との間に何らかのギャップを感じているのではないでしょうか。

何を隠そう8年前の私は、このような理想と現実のギャップに悩みRBSの門を潜りました。

そんな私にとってRBSで過ごした日々は大変充実した時間となりましたが、その中でも私を“起業”という道に導いてくれたのは、ビジネスゲーム・ソフトを使って仮想の企業運営を行う「ビジネスシミュレーション」の授業でした。当時、現実の職場では何の役職も無い私でしたが、「ビジネスシミュレーション」の中では、なんと社長という大役をさせて頂くことになったのです。

その後、卒業と一緒に起業し、現在は花や植物に携わる会社を経営している私ですが、当時の私に起業という道に踏み出す勇気と自信を与えてくれたのが、この仮想の社長経験だったのです。

みなさんも、このRBSの名物授業で、理想への第一歩を踏み出してみませんか。



今井 英之 さん 01

株式会社ブーリー 代表取締役社長
BLOOM&STRIPES 代表
ヒキダンGREEN COMPANY 代表

**RBSでの学びと、
世代を超えた仲間との出会いが、
事業を作るという新しいキャリアを開いてくれました。**

現在はベンチャー企業への投資や、大企業の技術をスピノフして起業するといった、新しい事業を生み出す仕事に取り組んでいます。入学時はR&D部門で研究開発業務をしていたので、卒業後に起業家やベンチャーに関わるとは想像もしていませんでしたが、ここでの学びや刺激が、新しいことにチャレンジする機会を与えてくれました。

学術・実務的な力をつけることはもちろんですが、何よりも多くの魅力的な方々と、世代や業務を超えて切磋琢磨しある場が、私の人生を変える経験になりました。RBSはカリキュラムを見ただけでは伝わらない魅力に溢れており、得られたネットワークには今も助けられています。社会人学生というユニークな時間において、学びに来るという姿勢だけではなく、ぜひ主体的に行動し、想像も出来なかったキャリアを切り開く機会にしてもらえばと思います。



羽根田 里志 さん 03

本田技研工業株式会社
経営企画統括部ビジネス開発部



槙 広貴 さん 02

株式会社東海電子ホールディングス
グループ戦略室
株式会社トライテック 代表取締役

**学び直しの必要性を感じて進学。
先生方や同期の仲間との出会いで
さらに濃密で貴重な経験へ。**

入学前は開発部門の管理職と経営計画や単年度予算作成を担当しながら、今の知識のままでは社会人としての市場価値は下がる一方となるのではと危機感を募らせていました。

そんな中、進学先として立教MBAを選んだのは多彩な授業で網羅的に経営に関する理論を身に着けられることと、仮想ではビジネスシミュレーション、実際の企業を題材にしたコンサルティングメソッドで経営者としての視点を経験できる授業があったからです。

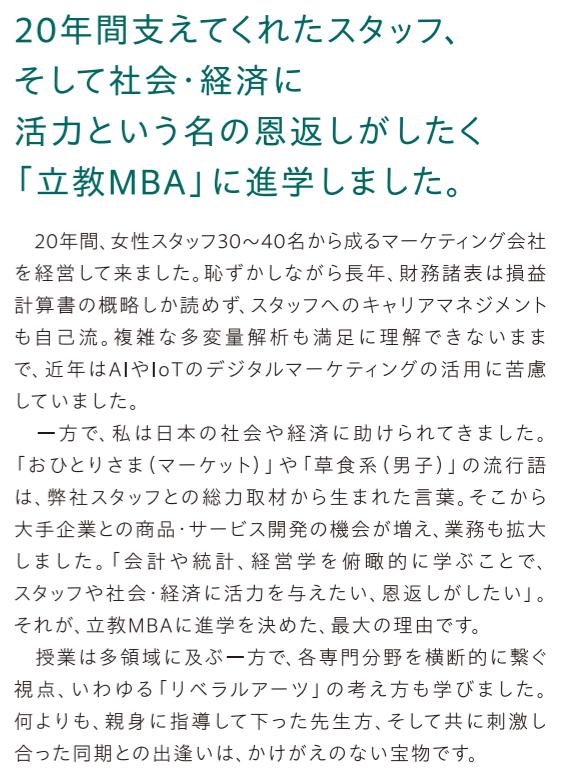
異なるバックボーンを持つ同期達と共に学び、時に議論を戦わせ、時には悩みを共有しあうことで、知識や理論の習得だけではない何事にも代えられない貴重な時間を過ごすことができました。それは会社内では得ることのできない多面的な視点や視座・考え方をインプットして咀嚼し、アウトプットして認めあえる時間でもありました。

そして、現在のグループ戦略・子会社経営という職においても、また、今後の人生においてもかけがえのない素晴らしい経験であったといえるでしょう。



牛窪 恵 さん 04

有限会社インフィニティ代表取締役
世代・トレンド評論家 マーケティングライター
財務省財政制度等審議会 専門委員



**20年間支えてくれたスタッフ、
そして社会・経済に
活力という名の恩返しがしたく
「立教MBA」に進学しました。**

20年間、女性スタッフ30~40名からなるマーケティング会社を経営してきました。恥ずかしながら長年、財務諸表は損益計算書の概略しか読めず、スタッフへのキャリアマネジメントも自己流。複雑な多変量解析も満足に理解できないまで、近年はAIやIoTのデジタルマーケティングの活用に苦慮していました。

一方で、私は日本の社会や経済に助けられてきました。「おひとりさま(マーケット)」や「草食系(男子)」の流行語は、弊社スタッフとの絆力取材から生まれた言葉。そこから大手企業との商品・サービス開発の機会が増え、業務も拡大しました。「会計や統計、経営学を俯瞰的に学ぶことで、スタッフや社会・経済に活力を与える、恩返しがしたい」。それが、立教MBAに進学を決めた、最大の理由です。

授業は多領域に及ぶ一方で、各専門分野を横断的に繋ぐ視点、いわゆる「リベラルアーツ」の考え方も学びました。何よりも、親身に指導して下った先生方、そして共に刺激し合った同期との出逢いは、かけがえのない宝物です。

立教での学びと生活 -院生の姿-

ビジネスデザイン研究科で学ぶ社会人は、自分たちが学ぶ研究科を、親しみと誇りを込めて
RBS(Rikkyo Business School)と呼んでいます。ここでは現役RBS院生の声と活動をご紹介します。



緒方 史乃さん
株式会社マルカリ IR担当

私はこれまで複数のIT企業及び現職にて、主に決算資料の作成やステークホルダーとコミュニケーションを行うIR担当として従事してきました。経営陣の代弁者として、会社の経営戦略が今後どう企業の収益力や企業価値向上に結びつくかをより俯瞰して語れるよう、幅広い分野に精通したゼネラリストを目指し、ビジネススクールへの入学を志望しました。

RBSは入門的なものから専門性の高い科目まで多彩に展開しており、アカデミックと実践のバランス

PROFILE

新卒で証券会社に入社。その後IRコンサルティング会社での海外リサーチ業務やスマホ向けゲーム会社でのIR業務を経て、2018年より株式会社マルカリにてIR担当として従事。

のとれた教員陣となっています。そのため、幅広い分野で学び理論と実践の両軸を強化したいという私のニーズにとても適した環境であると感じています。また、ダイバーシティ&インクルージョンを重視していることから、異なる専門領域で様々な視点をもつ仲間と共に学び合えることもRBSの魅力の一つかと思います。RBSでの経験は、今後の私の人生における大切な財産になると思っています。



友田 和也さん
IQVIAサービスジャパン株式会社

猛スピードでビジネスの環境が変化していく中で、「このままでは置いていかれてしまう」と危機感を感じたことが入学のきっかけです。

「ゼネラリストのスペシャリスト」、「ビジネスクリエイター」育成を掲げるRBSでは、教員から「アカデミックな視点」だけでなく「実務で活かすこと」を含めた双方向の授業が行われています。ディスカッションの機会も多く、多様な経験を持つ仲間たちから得られる知見がMBAの学びを深めってくれます。在学中に自身が

望む部署への異動が叶ったのも、RBSの学びの中で視野を広げられたからこそだと思っています。

アクセスのよい池袋にありながら、学内に入ると落ち着いた雰囲気となる立教大学は仕事と学生生活のバランスをとるのにも最適な環境です。志高い仲間とともに、自主的な勉強会等の課外活動にも積極的に取り組んでいます。限られた時間の中でいかに多くのことを学び取れるか、環境や人に恵まれたRBSでその学びが最大化できると考えています。

PROFILE

大学卒業後、住宅業界で営業職に従事。その後、ヘルスケア(特に製薬関連)企業向けにサービスを提供している現在の会社に転職。MR(医薬情報担当者)を経て、2023年1月より事業開発部に異動。



宮本 洋喜さん
株式会社ユニゾン・ホールディングス
グループ 株式会社メディアフォース勤務

私はIT企業に勤務し、システムエンジニアとして働いています。変化が激しく、不確実性が増す現代において、ただ求められたものをつくるだけでなく、顧客と共に課題を解決し、より積極的にビジネスを創造していく必要があると考え、企業派遣によりRBSに入学しました。

RBSでは、実務家教員による実践的な応用科目はもちろんのこと、経営戦略、財務会計、組織論などの基礎科目も充実しており、経営を学んだり、実際に

経営をしたりといった経験がなくとも、一から学んでいけることも魅力です。また、様々なバックグラウンドを持つ院生との交流からも、たくさんの刺激や気づきを得られます。

社内でも、同様に企業派遣でRBSを修了したメンバーと、講義内容を深掘りしたり、自社の戦略について議論したりしています。実際にRBSでの学びが実務に生かされており、私自身も自社の新規事業につながるビジネスプランを作成すべく、日々励んでおります。

PROFILE

IT企業にて、自社の戦略を見据えた新規ビジネスの獲得・推進を担う部署に所属。
システムエンジニアとして開発を行なながら、新規領域の案件にも参画中。

院生の活動報告

ビジネスデザイン研究会

事業構想力の醸成につながる研究会活動、RBSの魅力を学内外に伝える広報活動、院生自治など幅広い役割を担う伝統ある研究会です。



ブランディング研究会

様々なバックボーンを持つ参加者により、複合的なコミュニケーションが生まれているブランドマーケティングの勉強会です。



BizCom編集部

ビジネスデザイン研究科の有志によるニュースレターであり、院生の様子、授業の様子など旬な情報をお伝えするツールです。



ホスピタリティ研究会

自己を取り巻くビジネスシーンにおいて、如何にしてホスピタリティを実践するか、という思考プロセスを導く研究活動が特徴です。



JBCCへの取り組み

院生の一大イベントとして位置づけられる、実在の企業再生案件に基づいた戦略提言を競うビジネス系大学院生の大会です。

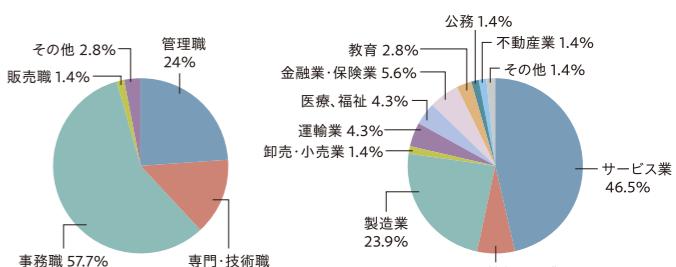
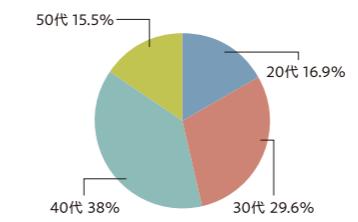
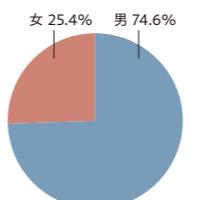


ビジネスデザイン立教会

修了生相互の交流や学びの機会の提供、現役院生との研究会など、修了後のネットワーク維持・研究科の発展のために活動しています。



2022年度入学者データ ※社会人入試のみ





MBA

Rikkyo Graduate School of
Business Administration

募集要項

■2024年度入学選抜試験案内(秋季9月実施・春季2月実施)(博士課程前期課程)

専攻	募集人員	区分	入試区分ごとの出願資格	実施時期	試験方法	試験時間	備考
ビジネスデザイン	90	一般	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、次の1・2のいずれかの条件を満たす者。 1.日本語を母語とする者。 2.出願時に日本において企業の代表取締役など経営者の職に就く者(雇用保険の被保険者とならない者)。	秋季 春季	書類審査 課題エッセイ※1 口頭試問		※1出願時に提出する。ただし、次の①②のいずれかにあたる者は課題エッセイを免除する。①.企業等の組織からの派遣により就学し、所属する組織の派遣証明書を提出する者②.30年以上の実務経験かつ役員経験を有する者
		社会人	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、次の1・2のすべてを満たす者。 1.入学時までに2年以上の実務経験を有する者。 2.出願時に日本において企業等の組織で現職に就く者。	秋季 春季	書類審査 課題エッセイ※2 口頭試問		※2出願時に提出する。ただし、次の①②のいずれかにあたる者は課題エッセイを免除する。①.企業等の組織からの派遣により就学し、所属する組織の派遣証明書を提出する者②.30年以上の実務経験かつ役員経験を有する者
		外国人	博士課程前期課程の出願資格要件を満たし、かつ、日本語を母語としない者。	秋季	書類審査 筆記試験 口頭試問	60分 (筆記試験)	

※外国人区分は秋季入試のみの実施です。

※選考方法など詳細は、変更される場合がありますので、出願の際の入試要項にてご確認ください。

※博士課程後期課程は春季入試のみです。

■進学相談会

7月、11月に実施予定。

※実施日、実施方法等については、HPにてご確認ください。

■入試に関する問い合わせ先

独立研究科事務室 E-mail: biz-ad@rikkyo.ac.jp

閉室等で、返信に日数を要する場合があります。

立教大学入学センター TEL. 03-3985-2660

■企業等からの派遣による出願のご案内

ビジネスデザイン研究科の入試では、我が国の企業等を担う管理者あるいは経営者の育成に貢献するために、所属企業等からの派遣による出願方法を設けています(上記備考欄の①参照)。ご勤務の従業員や管理者の方々の派遣をご検討の際は、お気軽にお問い合わせください。

研究サポート体制

■奨学金

奨学生名	対象	給与金額(年額)
立教大学大学院給与奨学生	大学院学生	前期課程30万円 後期課程40万円
立教大学校友会独立研究科奨学生	社会人入試制度で入学した大学院学生	50万円

その他各種の学内奨学生制度を設けています。

学費その他の納入金一覧

学費	入学金(初年度のみ)	225,000円
	授業料	1,043,000円
その他納入金	学生健康保険互助組合費	3,500円
合計(初年度)		1,271,500円
合計(2年次以降)		1,046,500円

※2022年度参考

※本学卒業生については入学金を徴収しません。

■教育訓練給付金の案内

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科は、2018年度より「専門実践教育訓練給付金」の講座指定を受けています。支給の対象となるのは、前期課程に社会人区分で入学された方(雇用保険による支給要件あり)となります。この制度により2年間で最大112万円を受給できますが、給付金制度や支給要件に関する詳細は、厚生労働省のホームページなどでご確認ください。

■学会発表奨励金

大学院学生自らが国内および海外で開催される学会で発表する場合に、申請により、交通費・宿泊料・資料作成費の必要経費を対象として奨励金を支給する制度。

■池袋図書館

収蔵可能冊数200万冊、閲覧席数1530席を誇る、国内の大学でも屈指の大規模図書館。多様なニーズに対応し利便性を向上させることによって、学習・教育・研究を強力にサポート。

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科

■研究科TOP

<https://business-school.rikkyo.ac.jp>



■入試案内

<https://www.rikkyo.ac.jp/admissions/graduate/>

